

# 養殖経営に関するアンケート調査

誌名	事業報告書 / 山梨県魚苗センター山梨県水産指導所
ISSN	02862166
著者名	山本, 淳 高橋, 一孝
発行元	[山梨県魚苗センター]
巻/号	21号
掲載ページ	p. 35-40
発行年月	1993年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



# 養殖経営に関するアンケート調査

山本 淳・高橋 一孝

ニジマス生産費の調査は、全国湖沼河川養殖研究会養鱒部会が昭和39年に行って以来、昭和62年に水産庁振興課が生産量上位5県について（昭和60年内水面養殖業生産費の構成調べ）、また、昭和63年に群馬水試が群馬県内の経営体を対象とした「経営管理に関するアンケート調査」の中で行ってきた。山梨県では、前述の昭和62年以降経営に関する調査を行っていないため、平成5年4月にアンケート調査を行った。

## 調査方法

山梨県内の養鱒業者53経営体を対象とした。様式は群馬水試の調査を参考にして、以下の内容の調査票を郵送した。調査票は無記名で、また電話による督促を行わなかった。

設問1. 養殖対象魚種はなんですか（複数回答可）

ニジマス ヤマメ アマゴ イワナ その他（ ）

設問2. 養殖池の面積はどのくらいですか。

\_\_\_\_\_ 坪、あるいは \_\_\_\_\_  $m^2$

設問3. 従業員数は何人ですか。

自分を除いて \_\_\_\_\_ 人

設問4. 1年間の生産量と生産額はどのくらいですか。魚種別に教えてください。

ニジマス \_\_\_\_\_ トン、 \_\_\_\_\_ 万円

ヤマメ \_\_\_\_\_ トン、 \_\_\_\_\_ 万円

アマゴ \_\_\_\_\_ トン、 \_\_\_\_\_ 万円

イワナ \_\_\_\_\_ トン、 \_\_\_\_\_ 万円

設問5. 現在の経営状況はいかがですか。

順調 まあまあ 苦しい やめたい  
その他（ ）

設問6. あなたの養鱒場での生産原価（平成4年度末）はどのくらいですか。

ニジマス1kgの生産原価 \_\_\_\_\_ 円

ヤマメ1kgの生産原価 \_\_\_\_\_ 円

アマゴ1kgの生産原価 \_\_\_\_\_ 円

イワナ1kgの生産原価 \_\_\_\_\_ 円

その他意見（計算したことがない、

設問7. 前記の生産原価のうち、次のそれぞれに占める割合はどのくらいですか。

種苗費 + 飼料費 + 労務費 + その他 ( )  
ニジマス \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % = 100 %  
ヤマメ \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % = 100 %  
アマゴ \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % = 100 %  
イワナ \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % + \_\_\_\_\_ % = 100 %

設問8. 生産原価を引き下げるために何か考えていますか。

いる (具体的に \_\_\_\_\_ )  
いない

設問9. 飼料効率を計算するのはどんな時ですか。

毎月 決算期ごと 育ちが悪いとき していない  
その他 ( \_\_\_\_\_ )

設問10. 販売対策の見直しを行っていますか。

している していない  
その他 ( \_\_\_\_\_ )

設問11. 養殖収支だけがわかる帳簿をつけていますか。

つけている (毎日、毎月) 伝票だけの整理 つけていない  
その他 ( \_\_\_\_\_ )

設問12. 養殖日誌をつけていますか。

つけている つけていない  
その他 ( \_\_\_\_\_ )

設問13. 水産技術センターに経営について相談したいと思いませんか。

したい したくない  
その他 ( \_\_\_\_\_ )

設問14. もし今年、あなたの養鱒場の経営に関してより踏み込んだ内容の調査への協力を依頼されたら、協力してもらえますか。

はい いいえ 内容による その他 ( \_\_\_\_\_ )

## 結果と考察

調査対象業者53件に対して、回答は16件(回収率30.2%)であった。電話による督促を行わなかったことに加えて、年間に魚病被害・水産用医薬品等使用状況調査、種卵種苗需給実態調査などの似かよった調査を行っているため業者に煩わしさを感じさせていることが、低い回収率の原因と考えられる。

設問1. 養殖魚種(複数回答)

ニジマス; 10件、 ヤマメ; 8件、 アマゴ; 5件、 イワナ; 6件  
その他(ギンザケ、アユ、コイ); 各1件

設問2～4. 表1 業者の概要

表1

魚種	生産量(t)	生産額(万円)	池面積(坪)	従業員数	業者数
ニジマス	1～10	425～600	64～2,000	0～6	5
	10～50	1,600～2,800	800	0～2	2
	50～100	7,000	750	1	1
	200～250	12,500	1,000～1,100	4～7	2
ヤマメ	1	200	306	2	2
	2	200～360	61～2,000	0～6	3
	3	400	1,000～1,100	4～7	2
	7	1,000	1,200	2	1
アマゴ	<1	48	18	0	1
	1	—	150	0	1
	2	360	96	0	1
	3	450	300	1	1
	7	1,000	1,200	2	1
イワナ	<1	100	306	2	1
	1	180	2,000	6	1
	2	200～360	800～1,100	2～4	2
	5	1,000	750	1	1
	16	2,300	1,200	2	1

設問5. 現在の経営状況

順調 0、 まあまあ 9、 苦しい 4、 やめたい 1、

その他 1 (趣味でやっているようなもの)

無回答 1

「順調」であっても「まあまあ」と答えることが商売上多い。

設問6. 表2 1kg当たりの生産原価

表2

原価(円)	ニジマス	ヤマメ	アマゴ	イワナ
380	2			
400	2			
500				1
600		1		1
750	1		1	
1,000			1	
計算したこと がない			4	
無回答			5	

生産金額を生産量で除した回答が目立ったが、これらは「無回答」に含めて処理した。

ニジマスでは 380 ～ 400 円程度であり、サンプル数が少ないものの、群馬水試の調査（第14回全国養鱒技術協議会要録）の 430 ～ 460 円と比較して、10 % 程度安価である。ニジマス以外の魚種についてはサンプル数が少なく、考察が加えられなかった。

設問 7. 表 3 生産原価に占める諸経費の割合

表 3

魚種	種苗費	飼料費	労務費	その他	(回答数)
ニジマス	10 ～ 20	30 ～ 60	20 ～ 40	5 ～ 16	(4)
ヤマメ	2 ～ 40	20 ～ 50	0 ～ 5	5 ～ 78	(2)
アマゴ	0 ～ 20	10 ～ 80	0 ～ 50	20 ～ 40	(4)
イワナ	15 ～ 40	50 ～ 60	2 ～ 25	0 ～ 5	(2)

いずれの魚種でも、飼料費が占める割合が高い。

また、その他には電気代、薬品代、借入金の返済が挙げられた。

設問 8. 生産原価の低減策を考えているか。

いる 9

飼料効率を上げるようにつとめる

死魚を出さないようにする

生産量上げる

電気代、薬品代の節約

稚魚期の歩留まりを上げる

安い飼料を使う

在庫調整

いない 5

無回答 2

設問 9. いつ飼料効率を計算するか。

毎月 1

決算期 3

育ちが悪いとき 2

していない 8

その他 0

無回答 2

「していない」が最も多く、群馬水試の調査と同様である。

設問 10. 販売対策の見直しをしているか。

している 6

していない 8

その他	0
無回答	2

「している」と「していない」の比率は群馬水試の調査とちょうど反対である。魚種による傾向は認められない。販売形態が限定されていて、見直しようがないためと考えられる。

設問11. 養殖収支だけがわかる帳簿をつけているか。

つけている	7
伝票だけの整理	3
つけていない	6
その他	0
無回答	0

設問12. 養殖日誌をつけているか。

つけている	10
つけていない	5
その他	0
無回答	1

設問13. 水産技術センターに経営を相談したいか。

したい	1
したくない	8

技術の相談はするが、経営の相談は必要ない

その他	1
-----	---

同業者に相談している

無回答	6
-----	---

「無回答」の判断は難しいが、「したくない」が最も多く、理由は前述のそれに尽きると考えられる。

設問14. より踏み込んだ調査に協力してもらえるか。

はい	6
----	---

いいえ	1
-----	---

内容による	8
-------	---

その他	0
-----	---

無回答	1
-----	---

「はい」と「内容によってははい」がほとんどであるのは当然の結果と考えられる。

本調査によって、本県のニジマス1kgの生産原価は380～400円であることが明かとなった。昭和62年の水産庁振興課と平成5年の埼玉水試の調査をまとめて表4に示した。ニジマス1kgの生産原価は、山梨県の1業者では400円、静岡県ではそれぞれ340円、417円であった。

表4 ニジマス1kg当たりの生産原価と費用の構成費

	生産原価	種苗費	飼料費	燃料費	電力費	販売経費	管理費	労務費	その他
静岡A*	340円	46.1%			0.3	8.2	2.2	6.8	36.4
静岡B*	417	48.0			7.8	9.0	7.1	6.1	22.0
山梨*	400	6.8	36.4	1.6	10.0	0.5	3.6	12.7	28.4
埼玉**	728	25.8	33.0		17.5			23.7	

\* ; 「昭和60年内水面養殖業生産費の構成調べ」(水産庁振興課)より作成

\*\* ; 「平成5年生産費実態調査」(埼玉水試熊谷支場)より作成

これに対し、埼玉県の1業者では728円と非常に高い値であった。この内訳を前3者と比較すると、種苗費、労務費、電力費の占める割合が多いのが特徴である。

また、昭和63年の群馬水試の調査では、群馬県内の養殖業者の場合、生産原価は430～460円の範囲が最も多いという結果であった(表5)。

表5 群馬県のニジマス1kg当たりの生産原価

生産原価(円)	経営体数
250～300	1
300～350	0
350～400	3
400～450	13
450～500	10
500～550	1
不明・無回答	12
その他	3

第14回全国養鱒技術協議会要録より作成

このように、生産地、養殖規模、用水の種類等によって、生産原価あるいは生産高に占める生産経費の割合に多少の相違は認められるものの、埼玉県の価格を除けば、最近10年のニジマス1kgの生産原価はおよそ400円前後と判断して差し支えないと考えられる。本来経営調査は単に経営状況の把握だけではなく、たとえば新技術などの導入が経営状態に及ぼす効果などの調査を目的として行われることが多い。養鱒業の場合、ピブリオ病ワクチンは新技術に該当すると考えられるものの、この効果の検討に値するほど十分普及していない。また、市町村営あるいは漁協・農協の経営体ならともかく、ほとんどの業者は私企業であるため、経営内容をあからさまにされるような調査に協力するか疑問である。また、経営について水試の職員が、どこまで立ち入ることができて、改善のアイデアを出せるのかを考えると、この程度の調査が限界と判断せざるをえない。当面は従来からの防疫対策、計画的な生産技術などの指導が適切と考えられる。